

# 校内研究計画

## 1 研究主題

「自己肯定感を高め、互いに学び合う生徒の育成」  
～話し合い活動を深める授業づくりを通して～

## 2 主題設定の理由

今年度の本校の教育目標は「心豊かでたくましく、志をもつ生徒の育成」であり、重点目標として「自己肯定感・自己有用感の醸成『褒めて、認めて、伸ばす』」としている。具体的な方策として生徒が活躍できる機会を多く設定したい。そして、生徒同士の人間関係力が高まるような取り組みを推進していきたいと考えている。その背景に、各学年1学級であり、3年間同じメンバーで過ごす中で、リーダーが固定しがちであったり、過去の人間関係のトラブルを引きずったまま進級するケースが見られたりしたからである。

一昨年度より新学習指導要領に完全移行し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて班での話し合い活動を授業に入れてきた。昨年度は校内研究の主題を「自己肯定感を高め、互いに学び合う生徒の育成」～話し合い活動を通して～と設定し、「学級づくり部会」でお互いを認め合う掲示物の工夫や朝活動での意見交流の場の設定、実行委員会制による行事を行った。「授業づくり部会」では、話し合い活動マニュアルの作成、各教科における話し合い活動の実施、授業者を輪番制にして道徳の授業実践等を行った。これらの取り組みにより、生徒アンケートによる自己肯定感・自己有用感の項目での高まりや積極的に生徒会活動や学校行事に関わろうとする姿が見られ、話し合いの流れを理解しスムーズに行うことができるようになった。しかし、話し合い活動において意見の交流や共有のみで終わる場面が多く、グループでの活発な話し合いはできていないことが多かった。そこで、意見交流のみでなく、意見の聞き方を身につけさせ発言に対して質問をしたり、批判的な意見を持ちながら反論を行ったりといった話し合い活動を行うことで、相手の意見をより深く理解し、自分の考えを伝える力がより身につく、生徒の資質、能力の育成につながるものとする。さらに、この話し合い活動のスキルを身につけると学習の場面だけでなく、生活の中で問題を解決していく際にも有効である。また、各教科の特性を活かした単元計画の作成や授業における課題設定や発問の工夫を行うことで、活発な話し合い活動になり、学力向上につながるものとする。更に、全職員が公開授業、授業研究会を行うことで、職員の授業スキルの向上とより良い授業づくりが期待できると考え、本研究主題を設定した。

## 3 めざす生徒像

- ・話し合うことを通して、課題解決や問題解決に主体的に取り組む生徒
- ・自分の意見や考えを根拠とともに説明、表現できる生徒
- ・それぞれの意見や立場を考えて話し合いに取り組むことで、学力向上に励む生徒

## 4 研究の進め方

- ・全職員が年間1回の公開授業、授業研究会の実施
- ・教科における特性を活かした単元計画の作成と話し合い活動の実施
- ・講師招聘による講話

## 5 研究組織

研究推進委員会（校長・教頭・教務・研究主任）

- ・校内研究会の企画、提案、総括
- ・研究内容の検討、進捗状況の確認
- ・情報発信

## 6 年間計画案

月	実施計画
4	研究計画作成、第1回校内研究会（R5 研究主題について）
5	第2回校内研究会（授業研究会①）
6	公開授業
7	公開授業
8	第3回校内研究会（講師招聘による研修会）
9	公開授業
10	第4回校内研究会（授業研究会②）
11	第5回校内研究会（授業研究会③）
12	公開授業
1	第6回校内研究会（授業研究会④）
2	第7回校内研究会（一年間の研究実践のまとめ）
3	次年度の校内研究に向けた計画と準備

※公開授業については、少人数での授業研究会を実施する。

※授業研究会①～④については、全体での授業研究会を実施する。

## 7 その他

### (1) 自己肯定感を高めるための取組

- ・互いに認め合い、意見を言い合えるような人間関係作り
- ・学年職員での輪番制による道徳の授業の充実
- ・お互いの良いところを認め合えるような掲示物の工夫
- ・意見交流の場を設定した朝活動
- ・「心を育む集会」後の小グループでの意見交流
- ・体育大会や文化発表会などにおける実行委員会制の実施

### (2) 互いに学び合う生徒を育成するための取組

- ・話し合い活動マニュアルを改訂した話し合い活動の充実
- ・対話活動やグループ活動での学び合いができるような課題設定や発問の工夫
- ・学習規律や家庭学習への取り組みなどにおける小中連携
- ・タブレット端末や電子黒板などの ICT 機器を活用した授業実践